

第6回 オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会

議事概要

1. 日 時：平成28年3月30日（水）15:00～17:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

有川（座長）、黒川、末吉、高木、谷藤、林、藤井、村山の各構成員、森本統括官、中川審議官、笹井参事官、真子補佐、須田補佐

1. 議事

（1）プレゼンテーション

4名の有識者から、オープンサイエンス推進に向けた取組について、プレゼンテーションが行われた。

① 「学術情報のオープン化の推進について」（文部科学省 渡邊和良 学術基盤整備室長）

<発表のポイント>

- ① 学術情報のオープン化の推進について：検討の背景及び基本的な考え方
- ② 研究成果の公開について基本的方策：論文のオープンアクセスについての取組、論文のエビデンスとしての研究データの公開、研究成果の利活用等
- ③ 研究データ基盤整備の方向性、継続的な検討の必要性

② 「一般研究者の作成するデータ及びデジタル・リソースの恒久的オープン化」（京都大学 齊藤昭則 准教授）

<発表のポイント>

- ① GPS全電子数データベース、ISS-IMAPデータベース、ダジック・アース・データベースの発展フェーズについて
- ② 3つのデータベースのフェーズアップについて

③ 「オープンサイエンスについてのフォローアップ報告」（物質・材料研究機構 谷藤幹子 科学情報室長）

<発表のポイント>

- ① 研究にかかる場面でのオープンサイエンスの普及・理解増進について：NIMS

Library Open Seminar等

- い 「RDA（Research Data Alliance）第7回総会および関連会合参加報告および所感」
（情報通信研究機構 村山泰啓 室長）

<発表のポイント>

- ü データ・シェアリング・シンポジウム及びRDA第7回総会結果概要

（2）事務局説明

事務局より、「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」議題について説明があった。

（3）主な意見等

上記のプレゼンテーション及び事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

（本検討会で議論及び検討すべき事項の確認）

オープンサイエンスがさらに推進され、研究データの共有や公開が活性化されることになると、その利活用を促進する活動が認知される一方で、研究データの共有や公開を自ら進んで取り組んでいる研究者へのインセンティブやキャリアパスなどの議論が必要。

G7等の国際的な会合でオープンサイエンスが議論されつつある中で、オープンサイエンスの取組が活性化されることになると、それぞれ関連のある団体等によって研究データ等を国際的に活用できるものにしなければならない。その上で、国として、共通的な考えを持っておくことが重要。

研究データや成果等の相互運用性を担保するにあたって、オープンやクローズ戦略を柔軟に進めることも重要である一方、その活動を進めるためのデータ・インフラをどのように研究の中で位置づけて進展させるのか、また国がインフラ整備などの進展に応じて、国際協調性を活かしながら諸外国と議論ができるのが重要。

4. その他

次回は、G7茨城・つくば科学技術大臣会合実施後に日程調整をする。